

第2回安中市総合計画審議会 議事概要

(以下 敬称略)

- 【日 時】 平成29年8月8日(火) 午前10時～11時50分
- 【場 所】 市役所本庁第201会議室
- 【出席委員】 15名(小竹、小嶋、田島、千葉、保々、大塚、篠原、阿久津、三宅、須藤、大平、吉田、上原(邦)、神成、舜胡)
- 【欠席委員】 6名(上原(メ)、武井、高橋、田村、恩幣、久保)
- 【事務局】 4名(企画課長、企画調整係長、企画調整係担当職員2名)
- 【支援事業者】 2名(特定非営利活動法人NPOぐんま研究員)
- 【配布資料】 ・次第
・資料1: 安中市総合計画市民会議発言要旨
・資料2: 第2次安中市総合計画骨子(案)

【会議経過】

1. 開会(進行: 企画課長)

2. 会長挨拶

3. 協議事項

〈会 長〉協議に先立ち、大塚、篠原の両委員を議事録署名人に指名したい。

〈委員一同〉異議なし。

(1) 第2次安中市総合計画骨子(案)について

〈資料2に基づきNPOぐんまより説明〉

〈会 長〉基本構想はどうしても抽象的な内容となる。基本計画も抽象的な内容の域を出ないことをあらかじめご理解いただきたい。その上で、まずは骨子(案)全体についてご意見等をいただきたい。

〈委 員〉骨子(案)を見ても安中のまちを具体的にどうしたいのかイメージできない。安中はどう進んでいくのか、安中らしさも見えてこない。安中市民が楽しくいきいきと暮らせるような「何か」があれば、外から移住する人も増えると思う。

〈会 長〉目玉になるようなもの、心に訴えかけるようなものがほしい、つまり「安中色」ということだと思う。

〈委 員〉安中らしさを出すためには、市の現状についてもっと詳しく述べたほうがよいと思う。県内12市の中での安中市の特徴、安中市の歴史や文化についても述べたらどうか。

〈会 長〉安中市の位置付けを知るためには、他市との比較があったほうが確かに分かりやすいと思う。そのためには単なるデータだけでなく、歴史や文化などの特殊性についても触れてもらえるとよいと思う。

〈委 員〉東京圏の大学等の学者達の中には、「安中学」を研究する「安中学者」がいる。その人達

の間では、明治維新以降の日本近代化の中で安中ほどの先進地域は全国でもないという評価がされている。具体的には養蚕業や製糸業、蚕糸業などが、近代的な精神と地場産業が結びついて発展した先進地だという。これは新島襄の精神とも関係してくると思う。「明治20年代に新しい日本人が安中で初めて誕生した」と表現する学者もいる。このように我々が知らない安中を外の人が詳しく知っていることも少なくないと思う。例えば、そういう視点からの独自性や特色を書き込めれば、高齢者福祉、子育て支援など、市民が求めるものを推進する背景として、安中市民はその精神を100年前から持っていたと言えると思う。住んでいる人より外の人の方が詳しく知っていることも多く、外の人による評価によって、市民が再評価するプロセスも重要だと思う。

〈委員〉人口減少や少子化・高齢化が進む中で、市民が互いに支え合わないと、市役所だけが行政サービスを担うことは財政的にも人的にも行き詰ってしまうと思う。「みんなで支え合うまち安中」のようなものを考えると、その前例が明治時代にすでにあったということは重要だと思う。

〈会長〉歴史的観点を盛り込める場所を探すとともに、安中学についても「安中色」として積極的に出してもよいと思う。

〈委員〉政策大綱6の「人権尊重社会の実現」は人権教育や男女共同参画に関する内容との説明があったが、男女共同参画が実現できているとは言えない状況であり、安中市は女性の市長ということも踏まえ、男女共同参画を別項目とすることを検討してほしい。

①総論について

〈会長〉総論から順に内容を見ていきたい。

〈委員〉P.5 安中市の概況は、(1)(2)の「概況」、(3)以降の「現状」に分けたらどうか。

〈委員〉P.12 まちづくりの課題(1)本格的な人口減少社会への対応について。説明にもあったが、人口減少は構造・構成の変化が重要であり、極端な話、若年層や生産年齢人口が増えれば、人口全体が減っても大きな問題とはならないと思う。一番の問題は、高齢化のスピードが速く、地域格差が生じていることだと思う。2025年には団塊世代が後期高齢者となるので、「本格的な人口減少・超高齢社会への対応」のほうの内容を忠実に表現していると思う。

〈委員〉P.12 まちづくりの課題(2)市民協働による自立した都市経営とあるが、市民にとって「協働」が分かりにくいと思う。最近市長は、「総働」という言葉を使っている。どちらが望ましいかは分からないが、「協働」の定義が必要だと思う。また、「都市経営」も抽象的で意味が分かりにくいと思う。

〈委員〉P.23 重点目標5の中で「安中市最大の資源は『人』。それをまちづくりに活かしたい」という市民会議からの意見があるが、どれほど素晴らしい総合計画をつくっても、その実現のためには市民と行政の協働が不可欠であり、そのためには一緒に取り組めるような「人づくり」、つまり人材育成について、まちづくりの課題や重点目標の1つとして加えてほしい。安中市は文化と教育のまちであり、「文教のまち」と言われ続けてきた。侍が明治維新で職を失ったとき、安中の侍は教師になり、館林の侍は巡査になったとして、「安中教員・館林巡査」と言われている。さらに新島襄が近代的な精神を宣教していったということを踏まえ、大きな意味での「人づくり」「人材育成」「教育」などが安中市

の歴史的に大きな特性だと思う。

〈委員〉市民アンケート結果を見ると、住みやすさや住みにくさについて地域差が大きい。これも踏まえて、まちづくりの課題として「人づくり」を加えてほしい。

〈会長〉難しい言葉は巻末リストで示す方法もあるが、脚注のほうが分かりやすいかもしれないので、検討してほしい。

〈会長〉P.4 計画の進捗管理について。PDCA で進行管理を行う理由について最初に述べたほうが分かりやすいと思うし、文章をもう少し膨らませたほうがよいと思う。文字サイズや行間などはこれで決まりか。

〈NPO ぐんま〉文字サイズやレイアウト等は今後調整していきたい。

〈委員〉P.12 (2) 市民協働による自立した都市経営について。市民側の希望や意向を行政側に伝え、面倒くさがってよく検討せずに却下されてしまうことがある。行政側の対応力も向上させる必要があると思う。

〈会長〉安全性は法律との関係等で市民側の意向に沿えない場合もあるので難しい問題だと思う。協働の定義はいろいろあると思うが、NPO 等の研究者である松下（啓一）先生の言葉を借りると「行政と市民が共に汗すること」という考え方もある。市民と行政が互いの手の内を知った上で行動することが、協働の1つの特色だと思う。「人づくり」については、P.12 のまちづくりの課題として項目を追加する方向で検討してほしい。

〈委員〉安中市民が、安中市に対して誇りを持つことが重要だと思う。産業振興における後継者問題などの面でも「人づくり」は重要だと思う。

〈委員〉安中市で生まれ育ち、外に出たことがないが、安中が好きである。そういう「好き」つまり魅力をもっとアピールしてほしい。人づくりについては、良い意味でも悪い意味でも安中市民は「ほんわか」していることが魅力だと思うし、それが安心して住めることにもつながると思う。

〈会長〉そういう意見は、市民会議の成果と合わせながら盛り込むことが可能だと思う。「ほんわか・あんなか」は韻を踏んでいてよいと思う。

〈委員〉P.16 政策大綱4の教育・文化・交流について。市民展の会場施設が寂しいと思う。教育については、新島学園は確かに立派な学校であるが、短大は高崎に取られてしまった。前橋の共愛学園のように幼稚園から大学までの教育が1つの場所で受けられるようになるとよいと思う。

〈委員〉藤岡も群馬医療福祉大学（看護学部）という大学を誘致した。

〈委員〉安中市には子どもから大人まで集える核となる施設がなく、様々な施設が分散している。

〈委員〉P.12 (1) 本格的な人口減少社会への対応について。「住みたい人を増やし」とあるが、若い人達の健康づくりのための施設がないと思う。課題として上げるとともに、具体的な施策がなければ、P.16 の政策大綱4に基本施策として盛り込んでもよいと思う。

〈委員〉子ども達が集える拠点施設を長く要望してきて、ようやく原市に児童館ができることとなった。しかし、大きな施設ではないので、拠点施設の重要性について文言を入れられるとよいと思う。

〈会長〉この審議会では施設をつくることまでは言えないし、それを盛り込むと、実施計画で実現性を検討しなければならない。財政的裏付けも必要となる。一度建物をつくると、それが将来的に負の遺産になることもあり得る。しかし、優先順位が高ければ検討すべきだ

と思うので、文言として盛り込めるかどうかを含めて検討させてほしい。

〈委員〉安中市の住みやすさとして、税金の安さや福祉の充実度、景色、交通利便性などの声を聞く。骨子（案）にはそのとおりだと思えることが書かれているので、あとはそれらを具体的にどうするか、つまり具体的施策が重要だと思う。PDCAも個々の取り組みのチェックが必要だと思う。安中市のよいところや住みやすさを市民が話せるようになることも重要だと思う。

〈委員〉PDCAのC（Check）について、これまでの安中市はあまり取り組んでこなかったが、近年では徹底的な議論をしており、指針やプランも出している。Checkについては、現在は県内12市の中でも先進的な都市だと思う。

②基本構想以降について

〈会長〉基本構想を含めて見ていきたい。P.15以降の各基本施策の番号の付け方は、P.18の施策体系と合わせてほしい。

〈委員〉政策大綱5の産業・雇用について。基本施策として農林業や商工業の「振興」とあるが、10年後に生き残れるかどうかというほど深刻である。重点目標でも主な基本施策として掲げられているが、具体的に何をするのが重要だと思う。

〈会長〉若い世代の魅力を考えると、雇用を重視したほうがよいか。

〈委員〉雇用対策には、産業や経済と社会保障の2つの側面があり、ここは産業や経済の視点で書かれている項目だと思う。雇用対策はこれまで国が中心で取り組んできており、市町村は政策に慣れていない部分もあると思う。国や県、市などの行政権限の問題もあるので、慎重に書いていったほうがよいと思う。

〈委員〉市民アンケート結果を見ると、医療に対する緊急性が高く出ている。しかし、実際には市内に5つの病院があり、開業医も少なくない。それでも満足度が低いということは、公立病院のあり方が課題なのだと思う。若い世代は産科や緊急時の小児科などに不安があるのだと思う。新しく病院をつくることは難しいので、周辺都市との連携など、ソフト面が充実できれば医療の満足度は上がると思う。自分自身は、安中市の医療の満足度は低くない。

〈会長〉医療圏ではなく、患者の状態に応じて、開業医、大きな病院など、どのように対応するかの情報発信があれば、待合室が混む大病院に毎回行かなくても済むと思う。

〈委員〉安中市は市民病院という意識がなかったと思う。藤岡に合併した旧鬼石町は、小さな町だけでも市民病院を持っていた。隣の高崎の病院が便利だという声を聞くが、高崎にも市民病院はなく、かつて県立病院を誘致する動きがあった。高齢社会でひとり暮らしなどが増えてくる中、医療の充実喫緊の課題だと思う。

〈委員〉碓氷病院にも優秀な医師や看護師などのスタッフが多くいるが、そうでない一部のスタッフへの不満がクローズアップされている面もあると思う。そういう人間的なことへの不満のほうが施設や設備に対する不満より多いのかもしれない。そういう意味でも人材育成が重要だと思う。

〈委員〉群馬県の医療技術者は、群馬の医局の影響力が大きく、一度群馬の医局に籍を置かないと医療に従事できないような状況にある中、医学部に通う人材に対して安中市が奨学金を出すような仕組みも考えられると思う。自治医科大学などが取り組みをしている。

- 〈会 長〉本日言い切れない、言い忘れたことがあれば後日メール等で事務局まで寄せてほしい。
ただし、総合計画は抽象的な内容にならざるを得ないことを踏まえ、個別具体的な項目に対する陳情にならないよう、高い目線でバランスを意識して意見等をいただきたい。
さらに修正の文案を出していただけるとよりありがたい。
- 〈委 員〉キャッチフレーズも重要だと思う。計画期間を市長任期と合わせるのであれば、本計画は市長の政策公約的な内容となるので、市長や市当局の考え方を出した上で議論したほうがよいと思う。タウンミーティングの内容についてもあわせて議論すべきだと思う。
- 〈副会長〉区長の代表としての立場も踏まえて言うと、行政と市民の間に意識に差があり、何でも行政にお願いすればよいと考えている住民が少なくないと感じている。先日、地元の道路沿いに樹木が茂り、(落ち葉等で)側溝が詰まっていることについて、周辺の地権者等11名に参加してもらい、市に除去をお願いする前に自分達でできることはしようと、樹木の伐採をした。これからの時代、全て行政任せではなく、まず地域でできることは地域でやり、その上で地域ではできないことを行政にお願いするようにしていかなないと、行政は財政的に難しいと思う。市民側が意識改革をしないと市の存続は難しいと思う。
- 〈委 員〉旧14地区が市政の末端を担っているが、少子化・高齢化の進行により、地域格差が広がっていると感じる。地域ごとにまちづくりの計画をつくることは難しいと思うが、市民も積極的・能動的に協働していく必要があると思う。
- 〈会 長〉協働は市民から動き、それに行政が乗ってくる形が美しいと思う。総合計画で協働をもっと強く打ち出していてもよいと思う。
骨子(案)についての協議はここまでとしたい。

(2) その他

〈事務局〉特にない。

4. その他

〈事務局〉意見等があれば、今月31日(木)までに、メール、FAX、郵送等で提出してほしい。次回は9月下旬を予定したい。日程調整の後、改めて連絡したい。

〈委 員〉仕事等の都合があるので、できれば1か月前には日程を知らせてほしい。

5. 閉会

以上

議事録署名人

篠原晴美

議事録署名人

大塚由紀子